

様式3

平成24年度 第1回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取聾学校  
 学校長 後藤 裕明

評価日	平成24年6月14日(木)			
委員	氏名	性別	資格・所属など	委員長
	田中 道春	男	国府町自治会会長	○
	諸家 紀子	女	県ろうあ団体事務局次長	
	中林 公子	女	県教育センター相談員	
	山中 俊弘	男	元県立鳥取聾学校PTA会長	
	林 明美	女	県立鳥取聾学校PTA会長	
評価・提言			学校の所見・改善策等	
<p>1 平成23年度提言の改善点</p> <p>(1) 学習進度について</p> <p>(2) 言葉の意味理解について                      ・言葉を覚えても、その言葉の意味をつかめない子どもがいるのではないか。</p> <p>(3) ろう連との関係の充実を</p> <p>(4) 体力づくりについても、小・中・高の連続を</p> <p>(5) 地域の学校へ出ていく幼稚部年長児へのケアを</p> <p>(6) 保護者のしつけについて                      ・障がいがあるからと、保護者が子どもに対して指導が甘くないか。</p> <p>(7) 運動会や学校祭等の広報活動について                      ・PRのあり方を検討するとよい。</p>			<p>1 平成23年度提言の改善点</p> <p>(1) 中学部や高等部では、放課後の補習学習等で対応する。また、小学部では単元に軽重をつけながら指導していく。</p> <p>(2) 実物や動きを使って理解の助けをしていく。また、キューサイン、手話、身振り等を使って対応していく。</p> <p>(3) 各大学や各職場へのフォローアップを卒業後3年間に行っている。進路や就職にあたっては、今後もうろう連と相談していくようにしたい。</p> <p>(4) 体育学習や部活動、研究とも絡めて、全校体制での取り組みを考えてみたい。</p> <p>(5) 年1回の仲間づくり交流会、教育相談、本校との交流学习等で対応している。今後もセンター的機能を果たしていきたい。</p> <p>(6) 幼稚部は、付添いを原則としている。理由は、学校と家庭での指導の一貫性である。しかし、年齢に応じて、徐々に離れてもらう。また、主事と保護者が話し合う機会を設けている。学校では、校長と語る会や親父の会を実施。今後も、保護者との連携を密にして、しつけ及び指導のあり方の共通理解を図っていきたい。</p> <p>(7) 報道への情報提供、ホームページの活用、各学校や関係機関への案内などを通して、PRしていく。</p>	

<p>(8) 学校教育目標について</p> <p>(9) 研究の重点化を図るとよい</p> <p>2 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <p>(2) 目標達成のための取り組み</p> <p>(3) 評価規準について</p> <p>3 学校運営への提言</p> <p>(1) 学校運営の重点 先生が増えたことによって、どこに重点をおいて学校運営を組織しているか。</p> <p>(2) 地域支援部のあり方 地域支援部は対外的な活動をしているが、他学部と地域支援部の連携はどうか。</p> <p>(3) 学校自己評価 高等部の学校自己評価の表記が抽象的である。</p> <p>(4) コミュニケーション能力の育成 聾学校に新しく来た先生に、早くコミュニケーションのもととなる手話力をつけてほしい。</p> <p>(5) 社会性の育成 聞こえないことによって、マナーが身につかない。 (例) ドアの閉め方、廊下の歩き方等</p> <p>(6) 手話力の早期定着を 小学部卒業までキューサインで授業を進めると、大きくなってから聾者とコミュニケーションがとれない。なるべく、早く手</p>	<p>(8) 本年度、心と体の一体化を図れるように意識して指導していく。</p> <p>(9) 柱をしっかり立て、系統性を大切にしたい研究になるようにしていく。</p> <p>2 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の重点目標を3目標に集約した。</li> <li>・学部と分掌と別にして目標設定をした。</li> </ul> <p>(2) 実態を考慮して、具体的な取り組み方針を決定した。</p> <p>(3) 目標設定に合わせて学部、分掌で、項目にあわせた評価規準を設定した。</p> <p>3 学校運営への提言</p> <p>(1) 学校運営の重点 本校で、18名の先生が変わった。教員を学部に固定するのではなく、学部をまたがって配置した。他学部に行くと、気づくことがある。先生の持ち味が生きる配置を心がけた。</p> <p>(2) 地域支援部のあり方 地域支援部は、授業を受け持っていない。3名は乳幼児の指導にあたり、2名は学校へ出かけて指導している。乳幼児は、幼稚部の教育につながるように連携を図っている。</p> <p>(3) 学校自己評価 御指摘のとおりである。検討したい。</p> <p>(4) コミュニケーション能力の育成 聴覚障がい者理解のために着任者研修を8回実施している。また、手話研修会、朝の日直によるワンポイント手話等で手話力がつくようにしている。今後も続けたい。</p> <p>(5) 社会性の育成 高等部の生徒が買い物に行った時、買い物ができない、聞けないという実態がわかった。折に触れ、指導していく。</p> <p>(6) 手話力の早期定着を キューのよさと手話のよさがある。発達段階に応じた指導をしていきたい。</p>
---	---

<p>話が身につくようお願いしたい。</p> <p>(7) 非常事態に備えて 避難訓練を拝見したが、校長室や応接室等に警報機がない。また、文字情報の提示もほしい。</p> <p>(8) いろいろなコミュニケーション手段を 社会に出ると、いろいろな方と接する。コミュニケーション手段のいろいろな方法を教えてほしい。</p>	<p>(7) 非常事態に備えて 今、見積もりをしてもらっている。また、文字情報については、活用できるように考えたい。</p> <p>(8) いろいろなコミュニケーション手段を いろいろな場面で、生活力、自立して生きていく力をつけてほしい。 (例) 社会人講師、マナー講師の活用</p>
--	--